

あけまして
おめでとうございます。

日頃より図書フロアをご利用いただきありがとうございます。本年もより良いサービスの充実を目指してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。
今年「寅年」です。「虎」「寅」にちなんだ本をご紹介します。



『李陵・山月記』
● 中島敦 著
● 新潮文庫 ● 2003年

中国の古典を題材にした中島敦の代表作。国語の教科書で読まれた方も多いかもしれません。寅年の初めに、虎になってしまった李陵の心に思いを馳せてみるのも良いかもしれません。



『かわいいこわいおもしろい』
● 岡田秀之 著
● 新潮社 ● 2017年

一本一本描かれた虎の毛から手触りが伝わってくるようです。眼光是鋭いけれど、どこか可愛らしい長沢芦雪の虎をご覧ください。



『わたしの寅さん』
● 小泉信一 監修
● 朝日新聞出版 ● 2010年

主人公「車寅次郎」の初夢から始まる正月映画でした。歳を取るにつれ、寅さんの言葉が心に沁みるようになりました。

LIBRARY INFORMATION ライブラリー・インフォメーション

特別整理期間 (蔵書点検)のお知らせ

1/15(土)	1/16(日)	1/17(月)
---------	---------	---------

15日・16日は、2・3階の図書フロアには 文化財事務室を除き立ち入りできません。17日は、全館休館です。

蔵書点検とは？
書架に並んでいるすべての本のICタグやバーコードを読み取り、あるべき場所に本があるかどうか、行方不明になっている本はないかを確認する作業のことです。

15日・16日の本の返却は、1階エントランスの返却ボックスおよび国会通り側のブックポストをご利用いただけますが、本の返却処理が遅くなることをあらかじめご了承ください。
期間中はご不便をおかけいたしますが、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

1月の展示情報 ※展示情報は変更する場合がございます。

2F パープルゾーン
『江戸書物大全』(～3/18)
江戸時代に開花した文化のひとつである【出版】。印刷技術の発達により書籍が流通し、本を読むことが庶民の間に広まったのはこの頃からと言われています。本展示では当時の人気作家やベストセラー作品のほか、印刷や流通など江戸の出版事情について特集します。

3F グリーンゾーン
『装い～身にまとう表現～』(～1/14)
「装い」といっても着るものだけではなく、髪型、化粧、時計、身にまとう物全てがその人自身を表現する装いとなります。その装いをぎゅっと集めて、展示を見た方に新しい発見と、楽しんで終わりでなくリサイクル・リユースなどの取り組みについても知っていただけたらと思います。

3F エレベーターホール
日比谷カレッジ NEW!
『叫びと囁き 福島の11年』関連展示 (1/18～3/20)
東日本大震災発災から11年が経過しようとしています。原発事故による避難指示も徐々に解除されつつあります。発災直後から福島で活動するフォトジャーナリスト・豊田直巳氏の写真を通して福島とその住民の11年について考えていただければと思います。

展示 PICK UP

2F パープルゾーン 三角台
『スタッフおすすめ本2022』(～2/20(日))

毎年恒例の「スタッフおすすめ本」の展示を今年も行います。図書フロアスタッフがおすすめする本を選びました。一冊、一冊にスタッフがコメントを添えています。さまざまなジャンルの本が集まっているので普段は手に取らない本との出会いのきっかけにしてください。

『ウナギのふしぎ』
● リチャード・シュヴァイド 著
● 梶山あゆみ 訳
● 日本経済新聞社 ● 2005年

『質問』
● 田中 未知 著
● 文藝春秋 ● 2018年

3F ブルーゾーン【アート・言語・文学】の本を集めたゾーン
『ミステリーの誘惑』(～2/18(金))

巧みに張り巡らされた伏線をもとに、真犯人やトリックを見破ることは、推理小説の醍醐味です。しかし中にはそんな読み方よりも、謎を巡る心理描写がミステリーの楽しみだという方もいるでしょうか。事実よりも感情の時代だといわれますが、謎を解くという行為は真実に近づけるのか、という裏テーマを込めて展示を作成しました。

↓名探偵たちです。

一密(室)は避けましょう。

▶▶▶ 館内では常時マスクをご着用ください。入館の際は、手指消毒・検温のご協力をお願いします。

千代田区立日比谷図書館 広報誌

謹賀新年 令和四年

明けましておめでとうございます。旧年中は多数の方にご利用いただき、厚く御礼申し上げます。おかげさまで、日比谷図書館は開館10周年を迎えることができました。本年も皆様にとっての「知の拠点」を目指し、図書館機能を中心にミュージアム機能・カレッジ機能を通し、読む・調べ

る・学ぶ・楽しむ・交流する・創造する複合文化施設として一層の充実を目指す所存でございます。より多くの方のご来館、ご利用をお待ちしております。新しい年が素晴らしい一年となりましょう、皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

令和4年元旦



『名所江戸百景』1856～1858年初版復刻版(歌川広重/共同通信社/1971年/特別研究室蔵)

【山下町日比谷外桜田】安政4年(1857年)
山下町は、今の帝国ホテル横にあった山下門外の山下町のこと。そこから江戸城の外堀と佐賀藩・松平肥前守の上屋敷を描いたもの。点景の門松や追羽根、凧揚げが太平の世の正月をものがたっている。現在は、日比谷公園に外堀の石垣の一部が残るのみである。
(復刻版解説:日本芸術院長 高橋誠一郎氏より)

calendar 開館時間:平日10時～22時 ■ 土曜10時～19時 ■ 日祝10時～17時 ■ 休館日

2022年1月							2022年2月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			1	2	3	4	5
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
23	24	25	26	27	28	29	27	28					
30	31												

お問合せ先: 千代田区立日比谷図書館 千100-0012 千代田区日比谷公園1-4 TEL:施設代表 03-3502-3340 図書総合カウンター 03-3502-3343 URL:https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/

information 部分(図書フロア)休館のお知らせ
2022年1月15日(土)、16日(日)
図書の特別整理を実施するため、2階・3階の図書フロア部分を臨時休館します。期間中は、フロアの立入りが出来なくなる他、図書の貸出・閲覧席の利用などができなくなります。本の返却は1階エントランスおよび国会通り側ブックポストをご利用ください。(一部資料を除く)図書フロア以外の施設は通常通りご利用いただけます。
※1月17日(月)は全館、休館日です。(文化財事務室は除く)

access 〔都営地下鉄〕●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分
〔東京メトロ〕●丸ノ内線 ●日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口徒歩3分
●千代田線「霞ヶ関駅」C4出口徒歩3分 ●JR「新橋駅」徒歩10分
※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

1・2月の講座

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。**千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。**

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

1/8 (土) 千代田区民講座 おいしい打楽器アラカルト2

講師：梅津 千恵子(打楽器奏者)

豊潤なマリimbaのサウンドとリズムカナルパーカッションで新春に相応しく華やかにエネルギー・チャージ。パッパからアフリカン・ブルース、そして日本の歌まで。パーカッションの基礎的な打ち方や名曲の演奏体験で、心がウキウキするリズムを皆さんと一緒に楽しみましょう。

(主催：NPO法人 神田雑学大学、共催：日比谷図書文化館)

- 日時：1月8日(土)14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名 ■参加費：無料



1/14 (金) 他 信長・秀吉の真実(全2回)

講師：堀 新(共立女子大学芸文学部教授)

織田信長・豊臣秀吉は、ともに「歴史上好きな人物」の1, 2位を争います。それくらい人気がありますが、われわれは信長・秀吉の真実の姿を知っているのでしょうか。世間に流布している人物像の大半は、後世の軍記物語や歴史小説で作りに上げられたものです。本講座では一級史料にもとづいて、意外な一面を浮き彫りにします。

■ 第1回「信長の真実」

1月14日(金)14:00～15:30(13:30開場)

鳴かないホトトギスを「殺してしまえ」と言うほど短気で暴力的なイメージのある信長ですが、実は意外と保守的で我慢強い一面があります。上位者に対する辛抱強さ、意外な権威主義など、少しガッカリする信長の一面をご紹介します。



織田信長画像(東京大学史料編纂所所蔵模写)→

■ 第2回「秀吉の真実」

1月21日(金)14:00～15:30(13:30開場)

豊臣秀吉ほど、江戸幕府を正当化する「徳川史観」によって歪められた人物はいません。天正12年(1584)の小牧・長久手の戦いは秀吉の負け、翌天正13年の関白任官は将軍になれなくて仕方なくとされていますが、果たして本当でしょうか。



豊臣秀吉画像(東京大学史料編纂所所蔵模写)→

- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：各回100名 ■参加費：各回1,000円

1/16 (日) 他 <日比谷オペラ塾>堀内修が語る短期集中講座(全2回) バロックオペラの大家モーツァルトの知られざる傑作

講師：堀内 修(音楽評論家)

モーツァルトといえば『フィガロの結婚』や『魔笛』などが代表的なオペラとして親しまれていますが、モーツァルト・オペラの本当の魅力は、現在ではあまり上演されないミラノ初演のバロックオペラや中期の傑作『イドメネオ』の中にあります。それらの知られざる作品を紹介しながら、モーツァルト・オペラを新しい視点から解説します。(主催：フェニーチェ劇場友の会、共催：日比谷図書文化館)

■日時：前編：「ミラノで初演された3つのオペラ」の魅力を探る

1月16日(日)14:00～15:30(13:30開場)

後編：モーツァルトの本当の傑作は『イドメネオ』だった

1月23日(日)14:00～15:30(13:30開場)

- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：各回60名
- 参加費：各回1500円

1/20 (木) 星をたずねて・太陽系

講師：皆川 敏春(星のソムリエ@みたか)、北崎 直子(星のソムリエ@みたか)

私たちが住む地球は太陽を中心とした家族の一員です。8つの惑星の他、お供をしている衛星(月)や、流星や隕石のような小天体が、この太陽系には無数に存在しています。そこへ「はやぶさ」のような探査機が降り立ち生命誕生の謎を究明しています。今回は太陽系の惑星以外の天体を訪ねます。



撮影：皆川敏春氏

- 日時：1月20日(木)19:00～21:00(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：40名
- 参加費：1000円

1/30 (日) 文化・芸術でひもとく世界の“いま”② 韓国映画から学ぶ韓国現代史 一分断と民主化一

講師：権容爽(一橋大学大学院法学研究科准教授)

韓国映画が世界で受け入れられたのは、現代史の痛みや社会の矛盾に正面から向き合い、普遍的メッセージを放っているからでしょう。本講座では、韓国映画から韓国現代史を学びます。とりわけ、現代韓国を理解する上で欠かせない「分断」と「民主化」の歴史を理解していきます。



- 日時：1月30日(日)14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名
- 参加費：1000円

2/6 (日) シリーズ：女性たちの芸術 第2回 印象派の女性画家たち

講師：新畑 泰秀(アーティゾン美術館学芸課長)

印象派は、新しい美術を産み出そうという機運に満ちていました。女性の立場が十分に尊重されていなかった時代に女性画家たちを仲間を迎え、平等な立場で活動を行ったこともその大きな特徴です。本講座では、ベルト・モリゾ、メアリー・カサットといった画家たちをご紹介します。



ベルト・モリゾ『バルコニーの女と子ども』1872年、油彩、カンヴァス 61.0×50.0cm 石橋財団アーティゾン美術館

- 日時：2月6日(日)14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■参加費：1000円

2/13 (日) 他 <日比谷オペラ塾>中央大学教授・森岡実穂が語る短期集中講座(全2回) ジェンダーの視点から『魔笛』『コジ・ファン・トゥッテ』を見直す

講師：森岡 実穂(中央大学経済学部教授)

描かれた時代の社会規範を反映しているオペラ作品は、現代のジェンダー感覚からすると「差別的」と思われる部分が出てきます。しかしそうした「問題」に注目することは作品の構造をより明確に理解する助けとなります。モーツァルトのオペラを題材に、オペラ演出を見る上で役立つジェンダーに関する視点を学び、それが作品解釈にどういう拡がりを与えているのかを考えます。

(主催：フェニーチェ劇場友の会、共催：日比谷図書文化館)

■日時：前編：「家族」を最小単位として～『魔笛』と家父長制の力

2月13日(日)14:00～15:30(13:30開場)

後編：「女はみんなこうあるべき」?～『コジ・ファン・トゥッテ』と性規範

2月27日(日)14:00～15:30(13:30開場)

- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：各回60名 ■参加費：各回1500円

・ポモーヌ広報室より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ あけましておめでとうございます。

日比谷図書文化館では、新年になると屏風や松などのお正月飾りで皆さまをお迎えしています。使用されている屏風は2012年に開館1周年記念として行われた特別展「市川團十郎 荒事の世界」の展示で使用されたものです。大きな老松が描かれ、歌舞伎の舞台上で能や狂言に準じた演目が行われる際に使用される舞台装置で「松羽目(まつばめ)」と呼ばれます。また松は、冬になっても緑を保ち、神を待つ・祀る、といった意味合いから日本では古くから縁起の良いものとされています。2022年が皆さまにとって笑ガオー(顔)で過ごせる1年となりますように。本年も日比谷図書文化館をどうぞよろしくお願いいたします。

From Chiyoda Public Library ■ 千代田区立図書館からのおしらせ

展示 表紙を彩る 魅惑のアートたち

- 会期：12月27日(月)～2022年3月26日(土)
※1月1日～3日、1月23日、2月26日～28日は休館
- 場所：千代田図書館9階 展示ウォール

思わず手に取ってしまう印象的な表紙の本に出合ったことがあるのではないのでしょうか。今回は、絵画などの美術作品を表紙にデザインした本と、その美術作品を紹介するとともに、関連本など約160冊を展示・貸し出します。いつもとは違った視点で本を楽しんでみてください。

2/20 (日) 古書で紐解く近現代史セミナー第39回 山田寅次郎 ～日本とトルコの親善に生涯を捧げた「民間大使」～

講師：和多利 月子(ワタリウム美術館 役員)

内田嘉吉文庫所蔵の『土耳其(トルコ)畫觀』(博文館/1911年)を著した山田寅次郎。彼は1890(明治23)年和歌山県串本沖でオスマン帝国軍艦のエルトゥールル号が座礁・沈没し、587名もの死者を出した遭難事件の義捐金を届けるためオスマン帝国(現・トルコ共和国)に渡りました。12年間当地に留まり、実業家として活動した山田寅次郎は茶道宗偏流八世家元・山田宗有としても知られています。本講座では山田寅次郎の孫であり『明治の男子は、星の数ほど夢を見た。オスマン帝国皇帝のアートディレクター山田寅次郎』(産学社/2017年)の著者である講師が、日本とトルコの民間交流に山田が果たした役割についてお話しします。



山田寅次郎(提供：山田家)

- 日時：2月20日(日)14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■参加費：1000円(千代田区民・学生500円)
※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

予告 特別研究室企画展示

内田嘉吉文庫の古書で旅する世界の街

内田嘉吉文庫で所蔵している地理書、航海記・探検記、写真集からはその当時の街の様子がよくわかります。今回の企画展示では18～19世紀に発行された資料を中心に、所収の図版から、貿易や商業で栄えた街、政治の中心、文化都市など街の興隆の様子を紹介いたします。繁栄する街の時代による変遷についてもご覧ください。



チープサイドよりセント・メアリ・ル・ボウ教会を望む(ロンドン/英国)
(『The Queen's London』/ Cassell and Company, Limited/1897年)

◆主な展示図書(予定)

『Travels Into Muscovy, Persia and Part of East-Indies 2』(Cornelius Le Bruyn/1737年)

『L'Inde des Rajahs』(Louis Rousselet/1877年)

『The Queen's London』(Cassell and Company, Limited/1897年)

『土耳其畫觀』(山田寅次郎/1911年)



ガネーシャの祭礼(ベナレス/インド)
(『L'Inde des Rajahs』/Louis Rousselet著/1877年)

◆期間 2022年1月18日(火)～3月31日(木)

- ※休館日：2月21日(月)、3月21日(月・祝)
- ◆開室時間：平日10:00～20:00、土曜10:00～18:00、日曜・祝日10:00～16:00
- ◆会場：4階特別研究室 ◆入場無料

